

# 復興へ向けて

One for All, All for One

中同協東日本大震災復興  
対策本部ニュース No.6

発行日：2011年4月30日

発行：中小企業家同友会全国協議会(中同協)

## 復興の先頭に立って～中同協憲章・条例推進本部・政策委員会合同会議

4月18日、中同協中小企業憲章・条例推進本部・政策委員会合同会議が東京にて開催され、16同友会から47名が参加しました。

会議前半は東日本大震災への取り組みの報告が熱く交わされました。

岩手同友会の菊田事務局長は、陸前高田では気仙支部の高田自動車学校が市役所のような機能を果たし、会員企業の地域に深く根をおろした情報網が避難所などの情報を吸い上げ、必要なものを必要とところへ届けることができたことと語り、中小企業、同友会の真価を發揮していると報告。

宮城同友会の佐藤代表理事は、緊急影響調査に基づき、多くの会員が雇用を維持しながら奮闘していることを紹介し、操業再開と復興、地域社会の復興へ貢献するための活動に全力を挙げていると報告。伊東事務局長は、自分が担当していた気仙沼や南三陸の地域が大打撃を受けましたが、操業再開や雇用維持のために特別の対応が必要であり、当面は同友会のつながりの中で支え合うしかないと考えていると強調しました。

瓜田・中同協政策局長からは震災で施策・制度がうまく機能していないことなど、被災地に共通する問題点を要望に反映させるとともに、第一次緊急要望で提言してきた事項が実現してきていることなどを報告。

最後に大橋政策委員長が、「今日は、被災地の主体的立ち上がり大いに学びました。今こそ、新しい企業家精神、経営者魂を發揮するときです。同友会の真価が問われています」とまとめました。



## 共に未来を切りひらこう

### 義援金

4月28日現在  
236,710,955円

\* 中同協に振り込まれている額

<被災地への送金額>

岩手、宮城、福島に送金し、これまでに合計1億8000万円を送っています。今後は状況を見て送金予定です。

### 現地（福島）に行って

松井清充・中同協事務局長

4月22-23日に福島同友会に行き、原発事故の影響を強く受けている相双地区（南相馬市、相馬市、飯館村など）の菊池会長に話を聞きました。

相双地区は91社で原発の避難20キロ圏に18社（全員避難）、屋内待機の20～30キロ圏に54社。郵便物も郡山止、宅配便も届かない地域です。菊池さんのスーパーが唯一この地域で開いており、相馬店をあけて、品物をそろえ、買い物バスも出して生きていく支援をされています。

当日は30キロ圏の会員の方や南相馬市長とも懇談。翌日はいわき地区にも行きました。余震、風評被害と続く中、会員企業は奮闘しています。

### 被災地から【福島】

～郡山と福島地区会で合同入社式

福島同友会では、4月18日に県内2会場（郡山、福島）で、28回目となる「2011年度合同入社式、新入社員研修」を開催。31社67名が元気に同友会会員企業の社員としてスタートを切りました。

開催が遅れましたが、郡山会場では、郡山地区会長の大川原順一氏（㈱福島県折込広告社代表取締役社長）から、「このような状況だからこそ、皆さんのような若い人の力が必要となってきます。是非、私たちと一緒に福島県の復興に向けて力を注いでいきましょう！」と激励のあいさつ。新入社員を代表して、(株)宝来屋本店 太田晃司さんから「今回の大震災に負けず、私たちは会社の発展、そして福島県全体の復興へ向けて一生懸命頑張ります！」との力強い決意表明がありました。

一方、25社61人の参加が予定されていた相双・いわきなど3会場では、4月に入り既に業務に入っている事や震災・原発災害による影響によって入社式の開催を見合わせざるを得ませんでした。

津波や原発による避難区域の指定等で営業基盤が根こそぎ失われた会社もあります。しかしそんな中でも、内定者に対し県外の同業者で当面働けるように手配するなど、地域や社員を守るために奮闘する会員企業の姿もあります。